

記者会見冒頭説明要旨

今回、関西の景気については、「新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状態にあるが、全体として持ち直しの動きが続いている」と判断しています。外需の回復が進むもとで、当地の輸出・生産は持ち直しており、個人消費も、家電や自動車などの財消費は堅調です。もっとも、感染症が長期化する中、飲食・宿泊などサービス消費は大きく下押しされ、予断を許さない状況です。景気判断のポイントは、以下の3点です。

第一に、輸出・生産です。中国、米欧に続き、足もとASEAN向けの輸出も持ち直しがみられる中で、実質輸出は感染症前の水準に復するなど、当地の輸出・生産は持ち直しています。財別にも、IT関連財が引き続き堅調に推移する中、自動車関連財も持ち直しが継続しています。加えて、北米向けの一般機械が好調となるなど、裾野が拡がりつつあります。もっとも、足もとでは英国で発生した変異種の感染拡大などから、各国で外出自粛要請を強化する動きもみられており、需要・供給面にどの程度影響が生じ得るかが、今後のポイントになると思います。

第二に、個人消費の動向です。財消費については、引き続き堅調です。百貨店の高額品や、家電、自動車販売は持ち直しの動きが続いており、スーパーも、年末年始は食料品を中心に、巣ごもり消費による押し上げがみられました。一方で、飲食・宿泊・旅行といったサービス消費は、年末年始の書き入れ時に需要が大幅減となったことに加え、緊急事態宣言の発令の可能性も見込まれる中で、今後も厳しい状況が予想されます。感染症の影響のほか、雇用・所得環境の動向が消費に与える影響を含めて、多面的にみていきたいと思えます。

第三に、企業支出の動向です。12月短観における設備投資計画は、製造業・非製造業とも、小幅な下方修正にとどまり、前年比プラスを維持しています。上期の業績悪化を受けて投資計画の先送りがみられる一方、Eコマースの追い風を受けた物流施設、5G関連、CASE対応、ワクチンを含むライフサイエンスなど、成長分野への投資は、引き続きしっかり行う計画となっています。一方、雇用・所得については、冬季賞与が前年を大幅に下回ったほか、21年度の新卒採用計画も前年割れの見通しとなっています。企業の動きについては、引き続きしっかりとみていきたいと思えます。

関西経済は、持ち直しの動きが続いていますが、感染症が長期化する中で、経済の下振れリスクは高い状態が続いています。今後とも、感染症が当地の金融経済情勢に与える影響について、注意深くみていきたいと思えます。